

1 関連計画の詳細

本編では、本計画の上位計画や主要な関連計画について説明しました。
ここでは、本計画と関連のあるその他の計画について説明します。

島田市中心市街地活性化基本計画

計画期間
令和2年度～令和6年度

JR島田駅周辺の中心市街地を活性化するための目標や施策を示す計画です。

テーマ

まちなかで住み、楽しみ、働く拠点づくり

まちなか暮らしの促進

人口減少・高齢化が進む中心市街地への居住を促進するため、リノベーションによる空き家や空き店舗等への居住を支援するとともに、多世代が中心市街地で暮らすことのできる環境づくりを推進する。

この実現のため、「リノベーションまちづくり推進事業」による空き家、空き店舗等の活用を推進する。
また「大井川左岸旧堤線改良事業」、「コミュニティバス運行事業」による安全・安心で移動しやすい環境づくりを行う。

島田市観光戦略プラン

計画期間
令和3年1月～令和7年度

観光施策に関する具体的な事業、取組を示すための計画です。

将来像

初めて来ても懐かしく、何度来ても新しい島田
～“ようこそ”と“ただいま”が呼応する大井川流域へ～

Ⅲ一② 回遊性を高める環境整備

空港や鉄道、高速道路といった主要交通網が結節している本市は、外部からのアクセスに優れるという強みを持っている一方で、地域回遊のための二次交通は充実しているとはいえない状況であり、観光資源の面的な活用が進まない要因にもなっています。

デジタルシフトを推進し、施設や資源をオンライン上でマップ化させ、位置情報を配信するなどしても、使いやすい移動手段がなければ回遊にはつながりません。

民間交通事業者と共に、多様なニーズに応える二次交通手段の整備に取り組み、観光客の利便性を向上させると同時に、域内観光資源の面的な活用を図ります。

環境の保全及び創造に関する基本的な計画です。
ゼロカーボンシティの実現に向けた方針、施策を示しています。(コラム参照)

将来像

大井川が育む 豊かな自然と暮らしを紡ぐ循環共生都市 しまだ
 ～未来を拓き活力を創造するゼロカーボンシティ～

取組4 暮らし環境の向上

①コンパクト・プラス・ネットワークなまちづくり

持続可能な都市経営を行うため、「島田市立地適正化計画」や「島田市地域交通計画」に基づいた、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを推進します。



コラム 環境のために私たちができること

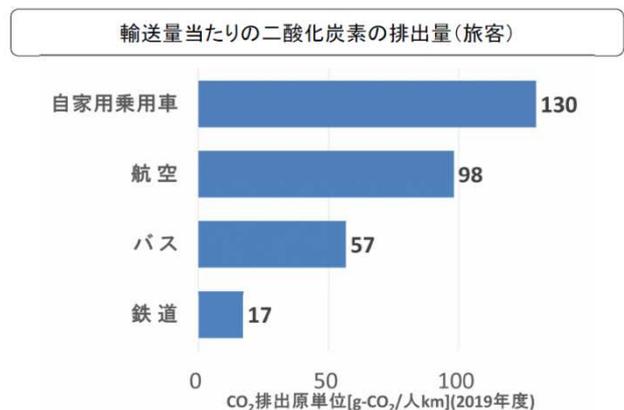
ゼロカーボンシティとは、温室効果ガスの実質的な排出量(実際の排出量から森林等による吸収量を差し引いた量)がゼロである都市のことです。島田市は2050年までにゼロカーボンシティを目指すことを表明しています。

ゼロカーボンシティの実現のためには、代表的な温室効果ガスである二酸化炭素(CO₂)の排出量を削減することが重要です。皆さんの生活に深く関連するものとしては、移動の際に車両が排出するCO₂が挙げられます。

バスや鉄道などの公共交通は多くの人が乗り合わせるため、輸送量当たりのCO₂排出量(1人を1km運ぶときのCO₂排出量)は自家用車の半分以下となります。皆さんが自家用車の代わりに公共交通を利用することで、全体のCO₂排出量を削減することができます。

静岡県が開発したスマホアプリ「クルポ」を活用すると、公共交通の利用※などCO₂削減につながるアクションを起こすたびにポイントがたまり、抽選で商品券などをもらうことができます。皆さんもぜひアプリをダウンロードして、楽しみながらCO₂削減にチャレンジしてみましょう。

※対象路線:川根温泉線、伊久身線、湯日線、島田静波線、金谷島田病院線
 対象路線を利用したら、アプリを起動して車内にあるQRコードを読み取ってください。



国土交通省ホームページより



アプリのダウンロードはこちらから

2 アンケート調査結果

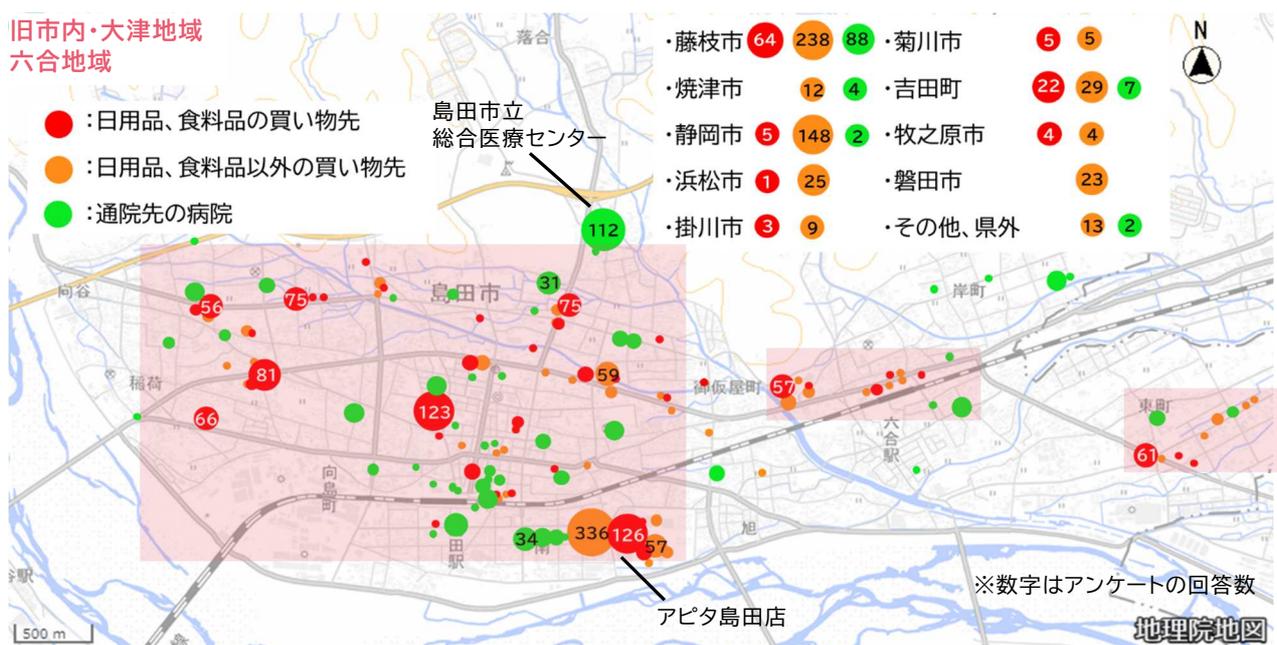
本計画の策定にあたり、市民の皆さんの外出状況や公共交通に対する考えを調査するためにアンケートを実施しました。

	郵送方式	Web方式
調査対象者	島田市に住む16歳以上の方	島田市に住む16歳以上の方
調査期間	令和4年9月14日～10月3日	令和4年9月15日～10月14日
調査方法	住民基本台帳から2,500人をランダムに抽出し、対象者に紙の調査票を郵送した。回答は紙に書いて返送、もしくはwebフォームに入力する形式となっている。	Web回答フォームを作成し、広報紙や市ホームページで公開した。また、市公式LINEで発信した。
質問内容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の外出状況 ・公共交通の利用状況 ・公共交通の満足度 ・公共交通に対する意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の利用状況 ・公共交通の満足度 ・公共交通に対する意識
回答数	1,069(回収率42.8%)	1,198

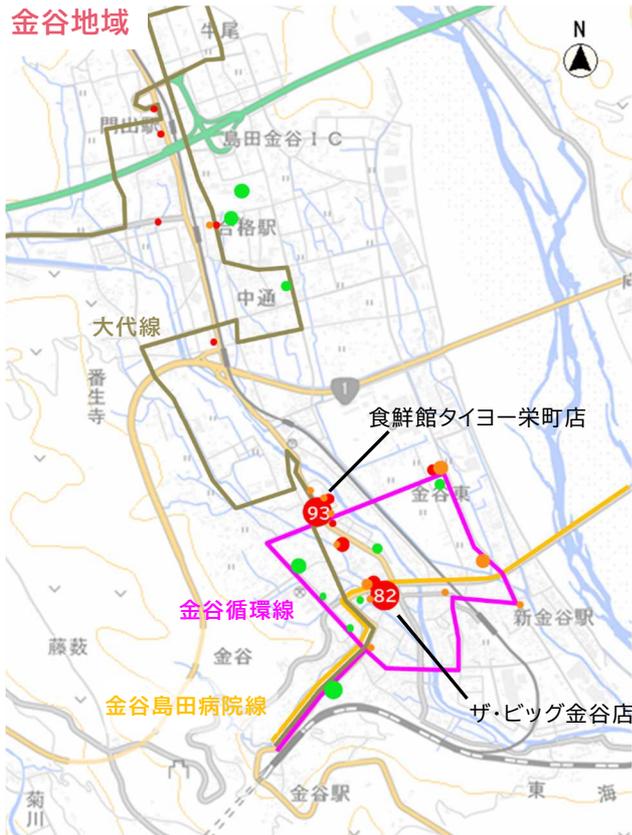
(1) 市民の外出・移動の状況



普段の買い物でよく利用するお店／通院でよく利用する病院を教えてください。



▲ 島田駅周辺、六合駅周辺によく利用される店舗や病院が集中していることがわかります。



◀ よく利用される店舗や病院はコミュニティバスまたは民間路線バスの運行ルートに近いに立地しています。

県道から外れたエリアは公共交通の空白地域 ▶ 域になっており、そこから県道沿いのスーパー等に行く移動手段が不足しています。

公共交通空白地域 🔍 ▶ P.23



◀ 店舗や病院が家山駅周辺に集中しており、買い物に行くために長距離の移動を要します。

買い物にかかる時間 🔍 ▶ P.42

回答者の居住地

買い物先	回答者の居住地						合計
	旧市内・大津	六合	伊久身・大長	初倉	金谷	川根	
アピタ島田店	170	82	48	57	74	31	462
田子重島田中央店	88	10	13	4	10	5	130
食鮮館タイヨー金谷栄町店	1	0	1	2	91	2	97
ザ・ビッグ金谷店	7	2	1	1	77	2	90
しずてつストア島田店	39	0	18	4	19	6	86
食鮮館タイヨー元島田店	63	10	2	3	1	4	83
杏林堂島田稲荷店	40	5	6	7	16	4	78
しずてつストア島田東店	6	48	0	8	0	0	62
マックスバリュ島田阿知ヶ谷店	18	29	4	2	7	0	60
ヒバリヤ新鮮市場三ッ合町店	22	3	14	1	9	13	62
通院先							
島田市立総合医療センター	28	18	11	18	27	10	112

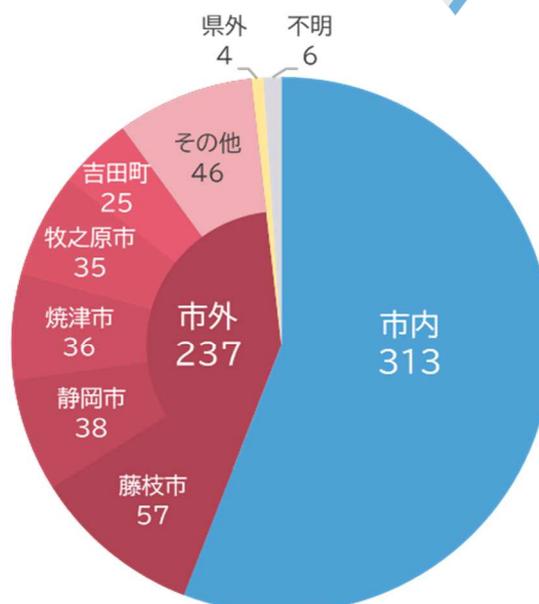
- 「アピタ島田店」は市内すべての地区から移動ニーズがみられるため、各地区からの交通アクセス確保が必要と考えられます。
- 「田子重島田中央店」や「食鮮館タイヨー金谷栄町店」などは、地区内の買物先として一定程度利用されているため、地区内からのアクセスの確保が必要と考えられます。

Q

通勤／通学先を教えてください。

通勤、通学では、回答者の約4割が市外へ移動しています。

市外へ通勤通学する方は、主に自家用車を利用して近隣の市町に移動していますが、鉄道を利用して静岡市などの遠方へ移動する方もいます。





買い物(通院、通勤、通学)に出かけるときの交通手段を教えてください。※複数回答

- 買い物や通院での移動手段では、約5人に1人が「家族・知人による送迎」を利用しており、よく利用されるお店や病院へのアクセスは潜在需要が見込まれます。

	買い物 (食料品・日用品)		買い物 (それ以外)		通院		通勤・通学	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
車・バイク	793	79.2%	757	77.4%	552	69.9%	469	83.8%
家族・知人等 による送迎	205	20.5%	240	24.5%	155	19.6%	18	3.2%
徒歩・自転車	244	24.4%	102	10.5%	129	16.3%	110	19.7%
バス	8	0.8%	15	1.5%	17	2.2%	16	2.9%
鉄道	8	0.8%	66	6.7%	11	1.4%	50	8.9%
タクシー	6	0.6%	8	0.8%	14	1.8%	2	0.4%

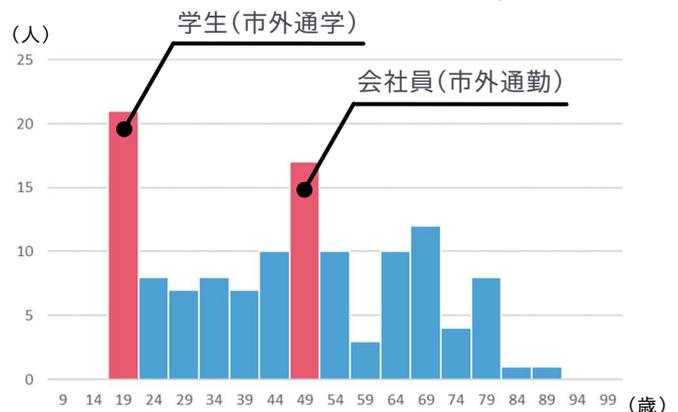
目的別の交通手段



鉄道駅まで向かうまでの交通手段を教えてください。※それぞれ2番目に多い交通手段まで回答

	天気のいい日		天気の悪い日	
	回答数	割合	回答数	割合
家族・知人等 による送迎	107	43.0%	128	51.4%
徒歩・自転車	160	64.3%	106	42.6%
車・バイク	98	39.4%	96	38.6%
バス	30	12.0%	29	11.6%
タクシー	13	5.2%	20	8.0%

駅までの交通手段



送迎利用者の年齢

- 鉄道駅に向かうまでの交通手段は、主に「家族・知人等による送迎」と「徒歩・自転車」です。
- 「家族・知人等による送迎」を利用する人の割合は、鉄道利用者の約半分を占めます。
- 送迎利用者の年齢から、市外へ通学する学生と市外へ通勤する会社員が多いことがわかります。朝と夕方の時間帯の駅(とくに、利用者の多い六合駅)へのアクセスを強化する必要があります。



新型コロナウイルスの影響で、外出の回数に変化はありましたか？

- 新型コロナウイルスの影響で、「買い物」及び「その他」の目的での外出が減少したという回答が多くなっています。
- 「その他」の目的とは、「飲食店」「友人・親戚宅」「スポーツ施設」などへの訪問が含まれており、いわゆる「楽しみ」の目的での外出が減少したことがわかります。
- 観光・商業と連携して市内のお出かけを喚起していくことが、公共交通の利用促進にとって重要です。

回数が「減少した」と回答した人の割合

買い物(食料品・日用品以外)	60.1%
その他	53.4%
買い物(食料品・日用品)	40.4%
通院	9.8%
通勤・通学	6.4%

新型コロナウイルスによる外出回数の変化

(2) 公共交通に対する意見



あなたは市が行う公共交通サービスにどのようなことを求めますか。それぞれの重要度を教えてください。※5段階評価

	旧市内・ 大津	六合	伊久身・ 大長	初倉	金谷	川根
家の近くで乗ることができる	69.1%	78.6%	74.7%	79.3%	79.9%	72.9%
使いたい時間にいつでも使える	59.3%	73.7%	72.2%	77.0%	71.1%	67.9%
好きな場所で降りられる	62.8%	72.1%	62.1%	71.3%	76.0%	72.9%
運賃が安い	65.0%	73.2%	61.1%	71.6%	67.4%	64.7%
駅周辺に行きやすい	56.2%	67.1%	56.2%	67.5%	69.9%	66.3%
一度のおでかけで色々なお店や病院に行ける	48.4%	62.0%	62.9%	51.3%	58.5%	60.0%
ダイヤを調べやすい	56.6%	65.1%	50.6%	53.4%	55.6%	52.3%
車内が密にならない	46.6%	53.9%	46.6%	51.7%	53.8%	52.9%
市外に行きやすい	41.7%	54.7%	43.2%	49.1%	55.9%	56.0%
バス停や駅の環境が良い	48.4%	56.3%	37.9%	53.0%	53.0%	34.1%
乗り降りしやすい	42.6%	41.6%	37.4%	49.6%	52.6%	45.9%
キャッシュレス決済が使える	43.0%	46.4%	31.0%	44.8%	42.1%	28.2%
乗り心地が良い	29.2%	33.8%	25.3%	25.4%	24.9%	29.4%

「とても重要」または「やや重要」と回答した人の割合

赤字:各地域での最高値
青字:他地域と比べて特に高い

- 「家の近くで乗ることができる」が全地域で特に高くなっています。
- それ以外の項目については、回答者の居住地域によって差が生まれています。例えば、六合地域では「ダイヤが調べやすい」「キャッシュレス決済」などが高い傾向にあり、金谷地域では「好きな場所で降りられる」「乗り降りしやすい」などが高い傾向にあります。

Q

島田市は令和3年度時点でコミュニティバスに約2億5千万円の経費をかけており、20歳以上の市民一人当たりの財政負担額は約2,400円※です。この金額と今後の公共交通のサービス水準について、あなたの考えに一番近いものを選んでください。

アンケートでの主な意見

財政負担額を増やしてでも、公共交通サービスを充実させた方がよい



将来自力で移動できなくなったら、バスがないと生活に困る。コミバスは本数を増やして、もっと便利にすべきだ！

160件(15.0%)

現在の財政負担額を維持し、可能な公共交通サービスを実施した方がよい



自分は使わないけど、学生や高齢者にとっては必要なものだと思うから、財政負担額は減らさないほうがいいと思う。

409件(38.3%)

コミュニティバスの運行はやめたほうが良い



負担額が多すぎる、税金の無駄遣いだ！利用も少ないので、やめてデマンド交通やタクシー助成にしたらいのではないかな？

サービス水準の低下はやむを得ないが、財政負担額を減らした方がよい

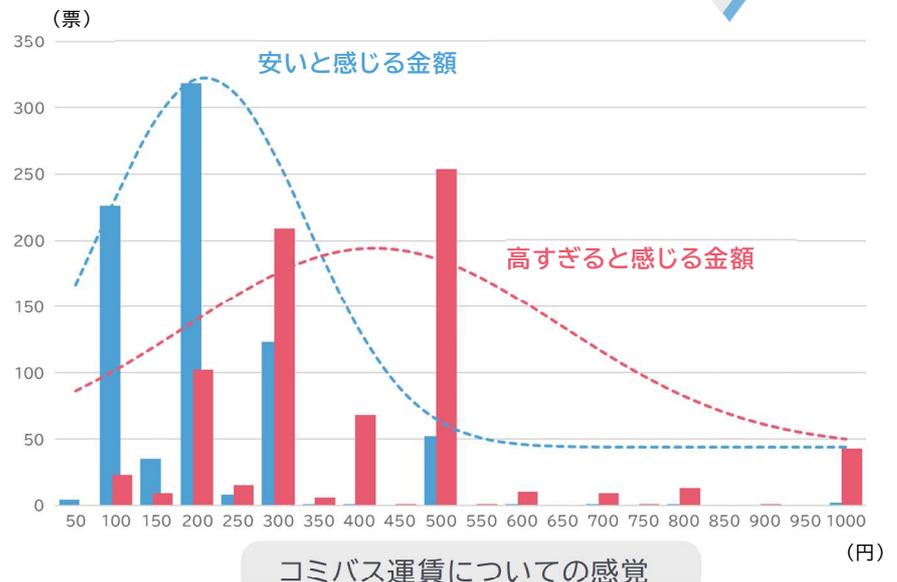
185件(17.3%)

※アンケート実施時点(令和3年度)での金額です。令和4年度の情報は [P.24](#) をご覧ください。

Q

コミュニティバスの乗車1回あたりの料金についてお聞きします。「安い」と感じる金額、「高すぎる、この金額なら利用しない」と感じる金額を教えてください。

コミュニティバス乗車1回あたりの料金については、200円前後で「安い」と感じ、500円前後から「高い、これ以上なら乗らない」と感じる方が多いということがわかります。



コミュニティバス運賃についての感覚

3 ワークショップ開催状況

(1) 公共交通ワークショップ

日常生活、移動に関する地域の方々の困りごとを見つけ、それを解決するためにどのような交通モードが必要かを考えるために、公共交通ワークショップを各地域で実施しました。

地域	実施日	参加者
金谷	令和4年11月21日(月)	自治会、コミュニティ委員会、地区社会福祉協議会 計23名
初倉	令和5年2月15日(水)	自治会、コミュニティ委員会、バス利用者 計24名
六合	令和5年2月17日(金)	自治会、コミュニティ委員会、地区社会福祉協議会 計17名
川根	令和5年5月23日(火)	自治会、地域学校協働推進員、NPO など 計15名
北部	令和5年8月22日(火)	自治会、コミュニティ委員会、民生委員 計21名

参加者からの意見

【外出に関する悩み】

- ・運転免許返納後、買い物や通院に行く手段があるか不安
- ・外食してお酒を飲んだ後、帰宅する交通手段が少なく不便
- ・バスの時間に合わせなければならず、自分の好きな時に外出できない
- ・家族を病院まで送り迎えするのが大変
- ・子どもをバス停や駅まで送迎するのが大変
- ・高齢者が外出しなくなって足腰が弱くなった
- ・朝の時間帯に県道が渋滞してしまい困っている

【こんな公共交通があったらいいな】

(タクシー)

- ・タクシー券の配布
- ・事前予約なしで、安く乗れるタクシー
- ・将来は、タクシーが自動運転になって運転手がいらなくなる
- ・地域内で利用できるワンコインタクシーがほしい
- ・タクシーを利用する(自家用車の維持費等を考えるとそこまでコスト高でない)

(自動運転)

- ・自動運転で、家の前まで迎えに来てくれる
- ・自動運転車をリースしてシェアライドに使う
- ・ネットで行先入力し、自動運転車両が連れて行ってくれる

(バス)

- ・ルート内どこでも乗れるバス
- ・地域内をゆっくり巡回する乗り物
- ・複数のスーパー(市外含む)を巡回するバス路線(ワンコインで利用でき、地域の各世帯から運行経費を徴収する、曜日によって店舗が変わり、様々なお店で買い物が楽しめる)
- ・現行のバス路線が、県道だけでなく市道まで乗り入れて欲しい
- ・空港から島田駅、藤枝駅までのバス路線に停車駅を増やす

(移動販売など)

- ・診療機能を備えた車両で医師が各家庭を訪問してくれる
- ・移動病院(患者宅を回って診察してくれる)
- ・高齢者のための巡回移動販売車
- ・食料品の移動販売、食事宅配

(地域の助け合い)

- ・地区社協の外出支援事業の対象者を拡大してはどうか?
- ・御用聞き屋の普及(日常のちょっとした困りごとを手伝ってくれる)
- ・自治会で送迎用車を所有して、ボランティアを募って送迎を行う

(その他)

- ・食料品はネットで注文し、ドローンが運んできてくれるので、買い物に行く必要がなくなる
- ・外出しなくても、注文すれば届けてくれる
- ・食料などの宅配システムが普及する
- ・みんなで共有できるシニアカー(電動カート)を設置し、好きな場所で乗り捨てできる
- ・大型ドローンで移動
- ・水陸両用バス
- ・どこでもドア
- ・坂道がエスカレーターになって楽に移動できる
- ・歩道を整備したり、車両のための補助が欲しい
- ・病院やスーパーが所有している車で送迎してくれる
- ・静岡空港と島田駅南口を接続するモノレール
- ・バス停まで歩いて行けないので、ドアツードアの乗り物があればいい
- ・「行先センター」を設置、市民の通院などの移動を管理し、配車手配やルート決定を一括で行うようになる

(2) まちなかについて考えるワークショップ

島田市中心市街地活性化基本計画(令和元年度策定)のテーマである「まちなかで遊び、働く拠点づくり」を実現させるための様々なアイデアを出し合うために、各地域の住民や高校生、NPOなど様々な立場の人が集まってワークショップを行いました。

テーマ	実施日	参加者
「暮らしたくなるまちなか」について考えよう！	令和元年7月7日(日)	自治会、地域住民、高校生、NPO 14名
「過ごしたくなるまちなか」について考えよう！	令和元年7月14日(日)	自治会、地域住民、高校生、NPO 19名
「働きたくなるまちなか」について考えよう！	令和元年7月28日(日)	自治会、地域住民、高校生、NPO 11名

参加者からの意見

○「暮らしたくなるまちなか」について

- ・交通の便が良く、バスでいろんなところにアクセスでき、車が不要である
- ・交通の選択肢が多様なまち
- ・安い値段で公共交通を利用できる
- ・市内の情報がネットにのっている
- ・AI、自動運転、ドローンなどの技術を活用し、省力化に取り組む

○「過ごしたくなるまちなか」について

- ・歩道を広く、シニアカーでも快適
- ・郊外からの移動手段を良くする
- ・公共交通で家の前まで行ける
- ・駐車場を気にしなくてよいコミュニティカーがある
- ・癒しを生む水辺空間を通りながら、文化資源を周れるルートを作る

○「働きたくなるまちなか」について

- ・バスの便が多い、土日も走っている
- ・島田駅周辺に無料のレンタサイクルを整備し、高校生や社会人を街に呼び込む
- ・交通面が発達していて、通勤しやすい
- ・乗り合いタクシーがある
- ・レンタル自転車でちょこちょこっと買い物に出かけられる
- ・電動車いすなど自動車以外の移動方法が発達し、健康活動のしやすい街をつくる
- ・街中を周るバスがほしい
- ・富士山静岡空港からまちなかへのアクセスを良好にし、外国の方も働きやすい、インバウンドに良好な環境づくり

(3) 地域連携交流会ワークショップ

島田市観光戦略プラン(令和2年度策定)の推進にあたり、地域の観光分野における課題やめざす姿についての意見を聞き取るために、地域の観光関連事業者とワークショップを開催しました。

テーマ	実施日	参加者
「大井川流域の観光地域づくり～地域ブランディングとインバウンド対応に向けて」	令和2年1月24日(金)	市内の観光関連事業者 41団体69人

参加者からの意見

- ・観光拠点同士の距離があるため、観光拠点をつなぐ交通手段(巡回バスのようなもの)を整備すると良い
- ・静岡空港から外国人にどのように市内に入ってもらえるかということ
- ・交通の便が少ないため、バスや貸し切りタクシーなどあったらいいと思います
- ・周遊バスの活用等により各施設が連携して地域としての売り込みを強化する
- ・蓬萊橋、川越遺跡、千葉山などをぐるっと回るバスの運行が欲しい
- ・SNSでの発信が必要
- ・多言語、特に英語での案内を強化していく

4 住民部会での意見交換

「島田市地域公共交通会議 住民部会」を開催し、計画の内容について地域の代表の方々と意見交換を行いました。

開催日	令和5年9月27日(水)
委員	島田市自治会連合会 各地区の地区長 7人 (第1～第5/六合/大津/大長・伊久身/初倉/金谷/川根)
内容	ワークショップの実施状況について 島田市地域公共交通計画(素案)について

参加者からの意見

【ワークショップの実施状況について】

- ・「20年先を考える」ということで最初戸惑いがあったが、参加者が面白い意見をたくさん出してきて良い会になったと思う。
- ・ワークショップに参加して、当事者(バス利用者)の意見をもっと聞きたいと感じた。また、新たな交通手段について様々な意見が出るが、地域住民も高齢化が進んでおり、担い手の問題でいつも壁にぶつかってしまう。
- ・地域の高齢者はコミュニティとしてのつながりが強く、誰かが送ってあげたり乗りあって出かけたりといった助け合いで成立しており、移動に関してそれほど切羽詰まっていないような印象を受けた。将来に向けて、公共交通の話をいかに自分事として捉えられるかが重要だと感じた。

【島田市地域公共交通計画(素案)について】

- ・第3章の絵は、現時点での理想を表現したものとしてよくできている。計画期間が終了する5年後になれば、また新たな技術革新や情勢の変化があり、将来の理想像も全く違うものになっているかもしれない。その時のアップデートが必要と感じた。
- ・地域の高齢者がなごみの里に行くときなど、公共交通でどうやって行ったらいいのか困ることがある。公共交通が充実しているように見えて、実は意外と多くないと感じた。
- ・コミバスが導入されたときは便利だと喜んだが、実際は飲み会帰りにたまに利用する程度。本当に必要なのかを地域で話し合っていかなければならない。利用の少ない区間はデマンド化するなどの方策も考えられる。

- ・地域で話すと「病院への足が必要」という声がよく上がるが、アンケートなどで調査してみると実はそれほど需要がない、といったこともあった。ほかの地域でも同じようなことがあるのではないかと。意見が上がるのと需要があるのは別。
- ・利用者はお年寄りだけではない。通学需要を考えることも大切。
- ・防災分野では、地域の一人暮らしの高齢者、要支援者などの情報を活用している。公共交通でもそういった情報を共有してルート設定などに活用してほしい。
- ・目的地までの移動のための公共交通も重要だが、それ以外に「乗ること」自体が目的になるようなものがあるといいと思う。トーマスが代表的な例。
- ・静岡市の駿府浪漫バスや大鉄の観光バスなどを参考に、乗りたくなるようなバスがあっても面白いと思う。
- ・収益を上げるための施策、もっと乗ってもらうための施策も頑張してほしい。交通だけでなく、目的地とセットで考えてほしい。まちなかの交通手段が充実しても、まちが魅力的でなければ行く人はいない。

あとがき — 計画策定に寄せて

本計画を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。

本計画を策定するにあたり、市民に対するアンケート調査、交通事業者へのヒアリング調査、各地域の代表との意見交換(ワークショップ)を実施し、様々な立場の方の声を計画に取り入れていきました。お忙しい中、各調査にご協力いただいた市民の皆様、交通事業者の皆様、自治会やコミュニティ委員会、地区社会福祉協議会など地域団体の皆様に、この場を借りて深くお礼申し上げます。

各地域でのワークショップで御意見を聞く中で感じたことは、日常の行動範囲や移動手段、外出目的、課題に感じていることが地域によって全く異なっているということでした。ある地域では、地域内の小さいエリアを巡回する交通手段が必要だという意見が出され、またある地域では朝早い時間に鉄道駅と住民の居住エリアをつなぐ交通手段が欲しいという意見が出されました。必要な車の大きさや運行頻度も地域によってさまざまであることがわかりました。

「オンデマンド交通」「AI乗合タクシー」「自動運転車両」「MaaS」など、公共交通にまつわる新しい取り組みが日本各地で実施されていますが、「これさえ入れればすべて解決する」という魔法のような交通手段は存在しません。私たちは、本計画の策定後も引き続き地域や交通事業者の皆様とともに、今ある交通手段をどう活用していくか、また限られた財源の中でどのような交通手段を取り入れていくか、対話を通じて決めていきたいと考えています。

公共交通は、子供もお年寄りも、車を運転できる方もできない方も、すべての市民が安心して島田市で暮らしていくために必要なものです。本計画が市民の皆様にとって、将来の生活について考えるきっかけとなれば幸いです。

島田市長

島田市地域公共交通計画

令和6年3月

編集・発行 島田市地域公共交通会議
(事務局 島田市地域生活部生活安心課)
〒427-8501 静岡県島田市中央町1番の1
TEL:0547-36-7144 FAX:0547-37-8200
E-mail : anshin@city.shimada.lg.jp
URL : <https://www.city.shimada.shizuoka.jp>